

令和4年度 国語科 第Ⅱ学年 年間指導計画

東京都立大泉高等学校附属中学校

学期	月	単元名 (教材名) (配当時数)	学習活動・内容	評価の主な観点			評価の観点規準	評価のための判断材料
				主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能		
1 学期	4月	広がる学びへ(8) ・見えないだけ ・アイスブランク ・枕草子 ・多様な方法で情報を集めよう 書写 行書と楷書の違い①(2)	・詩を読み、表現の特徴や題名に込められた作者の思いを捉える。 ・文学的な文章を読み、登場人物の言動に着目して、人物の関係や心情の変化を捉える。 ・古典を含む文章を朗読し、作者の季節に対するもの見方や感じ方を捉える。 ・多様な方法で情報を集めながら、自分の考えをまとめ、構成を考えて書く。 ・互いの作品を読み合い、構成のしかたや情報の活用のしかたなどについて助言し合い、自分の考えを広げる。 ・熟語の構成について理解する。 ・形や方向の変化に気を付けて書く。	○	○	○	多様な方法で発表する材料を集め、聞き手を意識して材料を整理し、分かりやすい説明ができる。調べて書くための方法を理解している。 描写に着目して、その意味や内容について解釈している。未知の語に出会った時、熟語の構成を考え、語義を推測する方法を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み</li> <li>・ノート</li> <li>・作文、感想文</li> <li>・発表</li> <li>・定期考査</li> <li>・課題テスト</li> <li>・小テスト</li> <li>・書写作品</li> </ul>
	5月	広がる学びへ/多様な視点から(12) ・クマゼミ増加の原因 ・魅力的な提案をしよう 書写 行書と楷書の違い②(2)	・説明的な文章を読み、文章の構成や事実と考察の示し方に着目して、説明のしかたの特徴を捉える。 ・資料や機器を活用し、写真や図表などと言葉と効果的に組み合わせ自分の考えを説明する。 ・さまざまなメディアの特徴について理解し、活用のしかたや注意点について知識を深める。 ・点画の連続や筆順の変化に気を付けて書く。	○	○	○	多様な方法で発表する材料を集め、聞き手を意識して材料を整理し、分かりやすい説明ができる。正確に印象深く伝える構成を考えながら、スピーチ・メモを作っている。問題意識を持って考えと根拠を吟味し、自分の考えと比較することができる。類義語、対義語、多義語について系統的に理解している。	
	6月	情報社会を生きる/言葉と向き合う(16) ・メディアを比べよう ・メディアの特徴を生かして情報を集めよう ・新しい短歌のために 書写 行書と仮名①(2)	・短歌と解説文を読み、短歌の形式や表現の工夫を知るとともに、それぞれの歌に込められた作者の心情や情景を理解する。 ・心情や情景が伝わるように、描写を工夫して短歌を創作する。 ・行書と調和する平仮名の筆使いや字形に気を付けて書く。	○	○	○	段落構成から論理展開や文章展開を捉えることができる。	
	7月	言葉と向き合う(12) ・短歌を味わう ・言葉と比べよう ・言葉の力 書写 行書と仮名②(2)	・「気持ちを表す言葉」を取り上げて、意味や用例の共通点と相違点について考え、語感を磨く。 ・随筆を読み、「言葉の本質」についての筆者の考えを読み取り、言葉に対する自分の考えを深める。 ・行書と平仮名調和に気を付けて書く。	○	○	○	選んだ短歌一首について、読み取ったことや想像したこと、表現の工夫など、鑑賞したことをまとめている。言葉の選択を経て短歌などの表現が生まれることの意義を理解している。語の意味、語の分類法、語種について系統的に理解し、語を適切に使う力を身につけている。	
2 学期	9月	人間のきずな(12) ・盆土産 ・字のない葉書 ・表現を工夫して書こう 書写 行書と仮名③(2)	・文学的な文章を読み、作品の構成や登場人物の描写に着目して、人柄や心情を捉える。 ・伝えたい気持ちや用件を明確にし、効果的に伝わるよう表現や構成を工夫して手紙を書く。 ・説明的な文章を読み、文章の構成や論の展開に着目して、筆者の主張を捉える。 ・行の中心や、漢字と仮名の大きさ、行頭末の位置など配列を整えて書く。	○	○	○	手紙の基本的な書き方を知り、相手や目的に応じた手紙を書くことができる。文脈に即して、表現の細部の意味を理解している。伝えようとする情報の意図にふさわしい文体があることを理解している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み</li> <li>・ノート</li> <li>・作文、感想文</li> <li>・発表</li> <li>・定期考査</li> <li>・課題テスト</li> <li>・小テスト</li> <li>・書写作品</li> </ul>
	10月	論理を捉えて(16) ・モアイは語る ・根拠の適切さを考えて書こう ・立場を尊重して話し合おう 書写 楷書と行書①(2)	・説明的な文章を読み、知識や体験と関連付けて自分なりの考えをもつ。 ・行の中心や行間、行頭末等の配列を確かめながら書く。	○	○	○	作品に描かれている情景や作者の心情を味わいながら音読し、作品の内容を正確に捉えている。音読・朗読・暗唱の工夫の仕方を理解している。	
2 学期	11月	いにしへの心を訪ねる(16) ・音読を楽しもう 平家物語 ・扇の的「平家物語」から ・仁和寺にある法師「徒然草」から ・漢詩の風景 書写 楷書と行書①(2)	・古典(古文)を含む文章を朗読し、作品独特の調子やリズムに慣れ、作品を読み味わう。 ・登場人物の言動から心情を考え、そこに表れた価値観に対して、自分なりの考えをもつ。 ・古典(漢文)を含む文章を朗読し、それぞれの漢詩に描かれた季節、情景、作者の心情を読み味わう。 ・目的や場面に応じて行書と楷書を使い分けて書く。	○	○	○	作品に描かれている情景や作者の心情を味わいながら音読し、作品の内容を正確に捉えている。音読・朗読・暗唱の工夫の仕方を理解している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み</li> <li>・ノート</li> <li>・作文、感想文</li> <li>・発表</li> <li>・定期考査</li> <li>・課題テスト</li> <li>・書写作品</li> </ul>
	12月	価値を語る(16) ・君は「最後の晩餐」を知っているか ・魅力の効果的に伝えよう ・月夜の浜辺 書写 楷書と行書②(1)	・説明的な文章を読み、語句や表現の工夫に着目して、筆者の絵画の見方について読み取る。 ・自分の意見と根拠を明確にして、効果的に伝わるよう文章構成を工夫して書く。 ・詩を読み、表現技法や連の構成などの表現のしかたに着目し、情景や作者の感じ方を捉える。 ・行の中心や行間、行頭末等の配列を確かめながら書く。	○	○	○	文章構成に沿って筆者の主張を理解している。	
3 学期	1月	読書に親しむ(12) ・研究の現場へようこそ ・日本に野生のゾウやサイがいた頃 ・クモの糸でバイオリン 書写 楷書と行書②(2)	・研究に関する本の魅力を感じ、積極的に読書の幅を広げる。 ・自分の知識や経験と結び付けて感想を交流する。	○	○	○	教材分を自分の知識や経験とむすびつけて読み、感想を伝えている。教材分を通して研究者の考え方や探究心に触れ、研究にかかわるさまざまな本を読もうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み</li> <li>・ノート</li> <li>・作文、感想文</li> <li>・発表</li> <li>・定期考査</li> <li>・課題テスト</li> <li>・小テスト</li> <li>・書写作品</li> </ul>
	2月	表現を見つめる(12) ・走れメロス ・構成や展開を工夫して書こう 書写 生活を豊かにする文字①(2)	・文学的な文章を読み、心情を表す語句や、登場人物の言動の意味などを考え、人物像の変化を捉え、作品を読み深める。 ・自分の体験の中から題材を探し、場面の様子や気持ちの変化が効果的に伝わるように、描写や構成を工夫して書く。 ・説明的な文章を読み、抽象的な語句に注意しながら、事例と主張の関係を考え、内容を理解する。 ・一年間の学習を振り返り、報告書をまとめる。 ・詩を読み、一つ一つの言葉の意味を考えながら作者が詩に込めた思いを捉える。	○	○	○	自分が感じたこと・考えたことを伝えるさまざまな表現法を身につけている。表記の工夫やキーワードを捉えて読解を深めている。さまざまな言葉の意味・用法・背景について理解している。	
	3月	表現を見つめる(6) ・国語の学びを振り返ろう ・木 書写 生活を豊かにする文字②(2)	・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。 ・伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。 ・詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	○	○	○	印象的な言葉や文章を書くには、言葉の味わいが必要であることを理解している。多様な語句について理解を深めると共に、言葉に関心を持っている。	

※ 指導計画には言語事項の「書写」を含みます。  
 ※ 生徒の習得状況に合わせ、進度の変更や教材の追加を行うことがあります。  
 ※ 教科書と副教材を取り扱う割合は、おおよそ教科書2に対して副教材1の割合です。